日本建築学会九州支部研究報告
第42号　2003年３月

旧パラオ医院本館と旧南洋庁観測所および気象台庁舎について
－戦前期日本の南方進出に伴う建築活動と室内環境調整手法に関する研究　その９－

正会員○辻原万規彦[*1]　同　今村仁美[*2]　同　香川治美[*3]

９．建築歴史・意匠－２．日本近代建築史
南洋群島，南洋庁，実測調査，近代建築，保存

１．はじめに

本報は，パラオ・コロールにおける日本委任統治時代の建築物の残存状況などを報告した前報[1)]に引き続き，パラオ・コロールに残る旧南洋庁パラオ医院本館（現パラオコミュニティーカレッジ・メインオフィス），旧南洋庁気象台庁舎（現ベラウ国立博物館）ならびに旧南洋庁気象台庁舎（現パラオ共和国社会文化省分館庁舎）の実測調査と検討結果などについて報告することを目的とする。なお，これらの建築物の位置などは，前報[1)]を参照いただきたい。

これらの建築物の調査は，まず現存する建築物をできる限り詳細に記録することを念頭に置き，次いでそれらの建築物の位置付けや評価を行い，最終的には可能であれば保存を提案しようとするものである。

なお本報では，当時の用語，呼称をそのまま用いた。

２．旧パラオ医院本館

1922（大正 11）年の南洋庁の設置と同時に，パラオ，アンガウル，ヤップ，サイパン，トラック，ポナペならびにヤルートの合計７つの医院が設けられた。これらの医院には，医長，医官，医員，薬剤官，薬剤員，産婆ならびに看護婦などが勤務し，日本人はもとより現地の人々に対する診療を行うとともに，地方病の調査を行っていた[2), 3)]。南洋庁が設置された当初は，ドイツ時代の建物を使って診療が行われていたようであるが，やがて新しい建物が建てられるようになった。

1934（昭和９）年に発行された『南洋群島地方病調査醫學論文集　第二輯』の巻末に，これら７つの医院の写真が数多く収められおり，パラオ医院本館の写真（**写真１**[4)]）も収められている。

この同じ論文集には，「南洋廳「トラック」醫院本館正面（昭和七年五月竣工）」と題された写真が収められている。収められている写真の数も，トラック医院の写真の方がパラオ医院のそれよりも多いこと，パラオ医院本館の写真のタイトルには竣工時期の記入がないことなどから，論文集発行の前にトラック医院本館が竣工し，パラオ医院本館の場合は，言及するまでもない，それ以前に竣工したと考えられる。また一方，1931（昭和６）年発行の文献5）の「南洋廳パラオ醫院」と題する写真には本館が写っていないことから，パラオ医院本館は，1931（昭和６）年ないし 1932（昭和７）年頃に建てられたと推測される。

設計者と施工会社については，現在のところ不明である。しかし，写真から判断する限り，パラオ医院本館とトラック医院本館の玄関まわりや窓ならびに庇などのデザインはが非常に良く類似しており，同一人物が設計したと考えられる。

現在は，パラオコミュニティーカレッジのメインオフィスとして使われている旧パラオ医院本館の現況平面図と推定平面図を**図１**に示す。後述のベラウ国立博物館（旧南洋庁観測所）と異なり，戦後の増築部分はほとんどない。また間仕切り壁の追加も，前報[1)]のパラオ裁判所（旧南洋庁パラオ支庁）ほどは見られない。なお，当時の部屋の用途はほとんど不明であるが，一番西端の部屋のみは，前述の論文集に掲載された写真と同じカウンターと床のタイルが現在でも残ってい

写真１　「パラオ」醫院玄關

Old Palau Hospital building and old Metrological Observatory of the South Seas Bureau buildings
- Studies on the building activities of Japanese architects and their control of indoor environment in Oceania and Southeast Asia under the Japanese administration Part 9 -
TSUJIHARA Makihiko, IMAMURA Satomi and KAGAWA Harumi

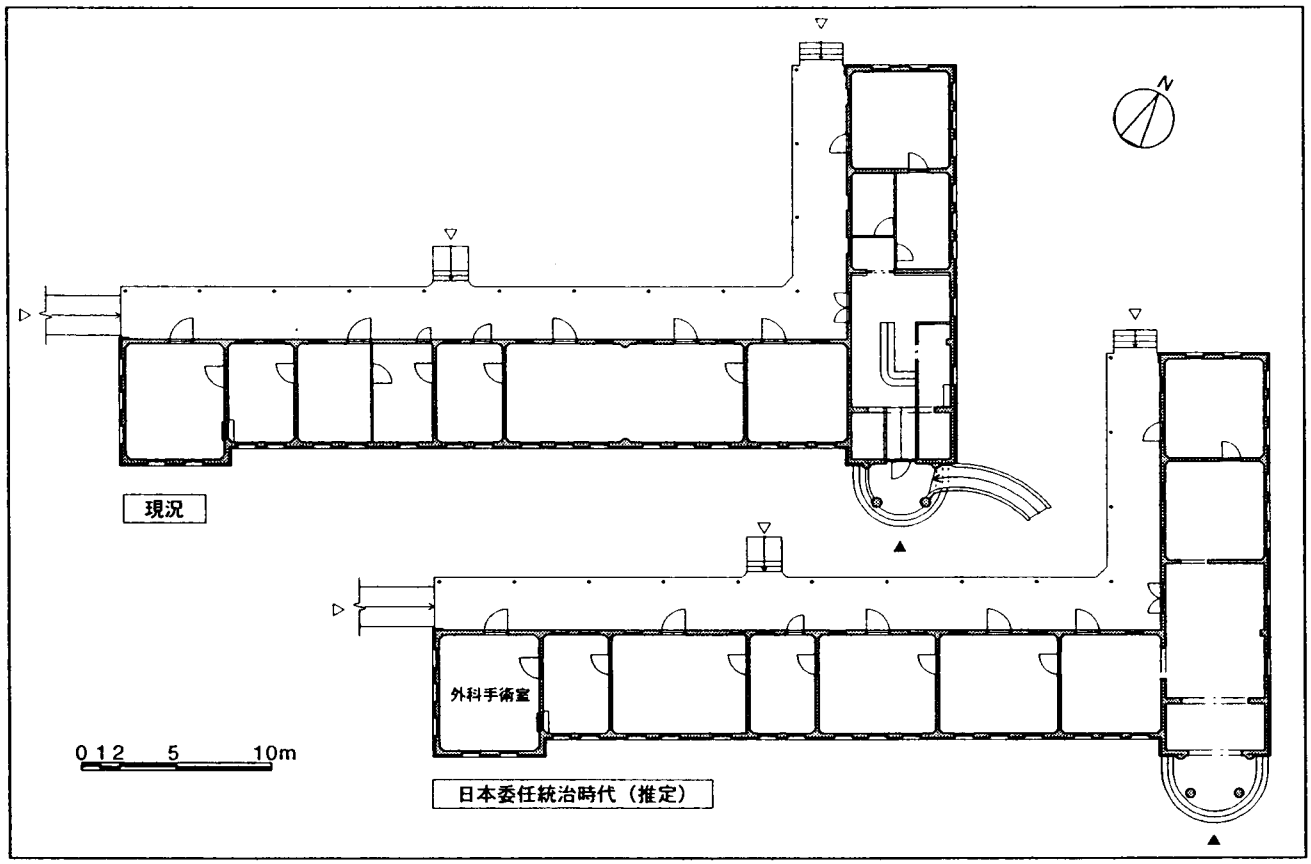

図1　旧パラオ医院本館（現パラオコミュニティーカレッジ・メインオフィス）の現況平面図と推定平面図

ることから，外科手術室であったことがわかる。

3．旧南洋庁観測所および気象台庁舎

1922（大正11）年に南洋庁官制が公布された時に，南洋庁観測所が設置された。この観測所の庁舎が「観測所（旧庁舎）」であり，現在はベラウ国立博物館として使われている。その後，1938（昭和13）年に「南洋庁の観測所ではパッとせぬから独立の官庁である気象台を作って内外に示そう」[6]との意図で，南洋庁気象台が発足し，新庁舎を「観測所（旧庁舎）」の北側に建設した[6]。この庁舎が「気象台（新庁舎）」であり，現在は社会文化省の幾つかの部局が使用している。

旧庁舎（**写真2**[7]）の正確な建設時期は現在のところ不明である。しかし，**図2**に示すように，庁舎の西の部屋にあたる地震計室[8]が1929（昭和4）年7月に新築されたとの記述[6]があること，中央の塔の部分と東側の部屋は異なる時期に建てられた構造であると推測されることなどから，東側の部屋は少なくとも1929（昭和4）年7月以前に建設されたと考えられる。すなわち，旧庁舎は，**図2**のように2期に分けて建設されたと考えられる。また，旧庁舎の設計者や施工会社についても現在のところ不明である。なお，旧庁舎の現況写真を**写真3**に示すが，戦後，2階部分の写真左側の3/4など，大幅な増築が行われており，一見しただけでは同一建築物とは判断できないほどである。

新庁舎の建設時期についても，現在のところ不明であるが，気象台発足時の式典は旧庁舎で行っている[6]ので，少なくとも1938（昭和13）年7月以降である。

新庁舎の設計者や施工会社についても不明であるが，前報[1]で述べた山下弥三郎の関与の可能性が高いと考えられる。この時期の南洋庁の建築活動を山下が主導していたと考えられること，また山下の個人アルバムに工事中の写真（**写真4**）が収められていたからである。**写真4**からは，新庁舎は1階と中央の塔の部分が鉄筋コンクリート造であり，2階部分が木造であったことがわかる。

また社会文化省分館庁舎（旧南洋庁気象台庁舎）の現況平面図と現況立面図を**図3**に示す。2階部分は戦後の改築と考えられるが，1階と塔の部分はほぼ建設当時のままである。中央の塔の部分のデザインが特徴

写真２　南洋庁観測所

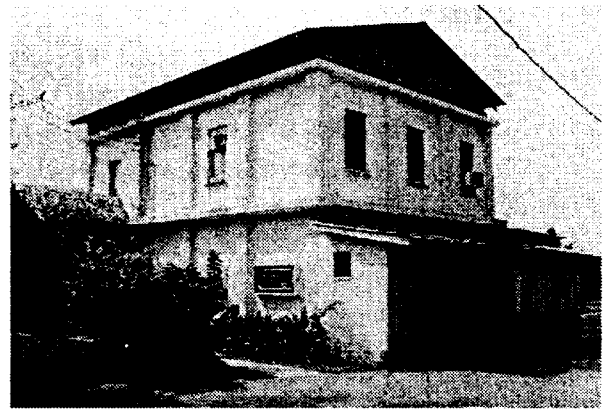

写真３　ベラウ国立博物館（旧南洋庁観測所）

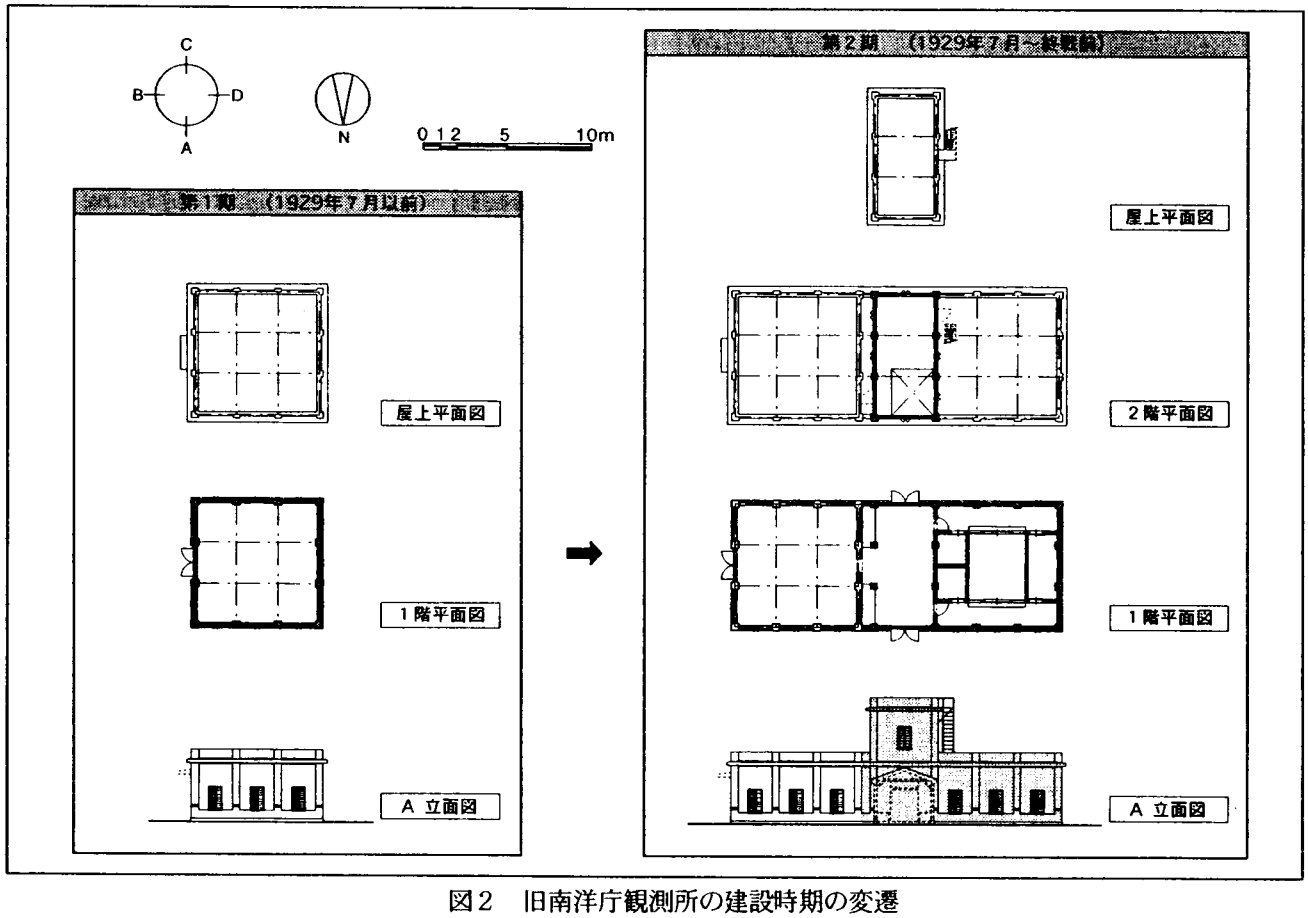

図２　旧南洋庁観測所の建設時期の変遷

的であり，前報 [1] で報告した旧南洋庁パラオ支庁と同様，正面性が強調されていると言えよう。また，B 立面図の左側の１段上がっている部分を G.L.として，旧庁舎が隣接して建っており，両者を結ぶ渡り廊下も当時のままである。

４．まとめ

本報では，パラオ・コロールに残る旧南洋庁パラオ医院本館，旧南洋庁気象台庁舎ならびに旧南洋庁気象台庁舎の現地調査の結果を示した。

これらの建築物については，設計者や施工会社など，詳細は不明なままであり，検討すべき課題が数多く残っている。今後，さらに研究を進めていきたい。

謝辞：旧パラオ医院本館の実測あたっては，パラオコミュニティーカレッジの Patrick Ubal Tellei 学長と Jay Olegerill 氏にご協力頂いた。旧南洋庁観測所と気象台の実測にあたっては，ベラウ国立博物館の Faustuna K. Rehuher 館長ほか歴史保存プログラム

の皆様にご協力頂いた。また資料収集にあたっては，山下三長氏にご協力いただいた。なお本報の一部は，平成13～14年度科学研究費補助金（奨励研究（A），若手研究（B），課題番号 13750557）と平成 13 年度（第 39 回）三島海雲記念財団学術奨励金によった。記して謝意を表する。

写真４　旧南洋庁気象台の工事中の写真

＜脚注・参考文献＞

1) 辻原万規彦，今村仁美，香川治美：パラオ・コロールにおける日本委任統治時代の建築物の残存状況と旧パラオ支庁庁舎－戦前期日本の南方進出に伴う建築活動と室内環境調整手法に関する研究　その８－，日本建築学会九州支部研究報告，第42号，投稿中，2003.3
2) 南洋廳長官々房：南洋廳施政十年史，南洋廳長官々房，pp.231～238，1932.7
3) 現地の人々に対する医療や衛生の実態は，今泉裕美子「南洋群島委任統治における「島民ノ福祉」」（日本植民地研究，No.13，pp.38～56，2001.6）に詳しい。
4) 南洋廳：南洋群島地方病調査醫學論文集，第二輯，南洋廳警務課，巻末写真集（ページ不明），1934.9
5) 吉田清編：日本統治地域南洋群島解説寫眞帖，研文社，p.8，1931.2
6) 川崎英男：台風発生地南洋群島の気象観測史，測候時報，第33巻，pp. 1～78，1966
7) 南洋群島文化協會，南洋協會南洋群島支部編：南洋群島寫眞帳，南洋群島文化協會・南洋協會南洋群島支部，p.114，1938.10
8) 南洋廳觀測所：昭和五年　南洋廳觀測所地震年報，南洋廳觀測所，口絵，1931.10

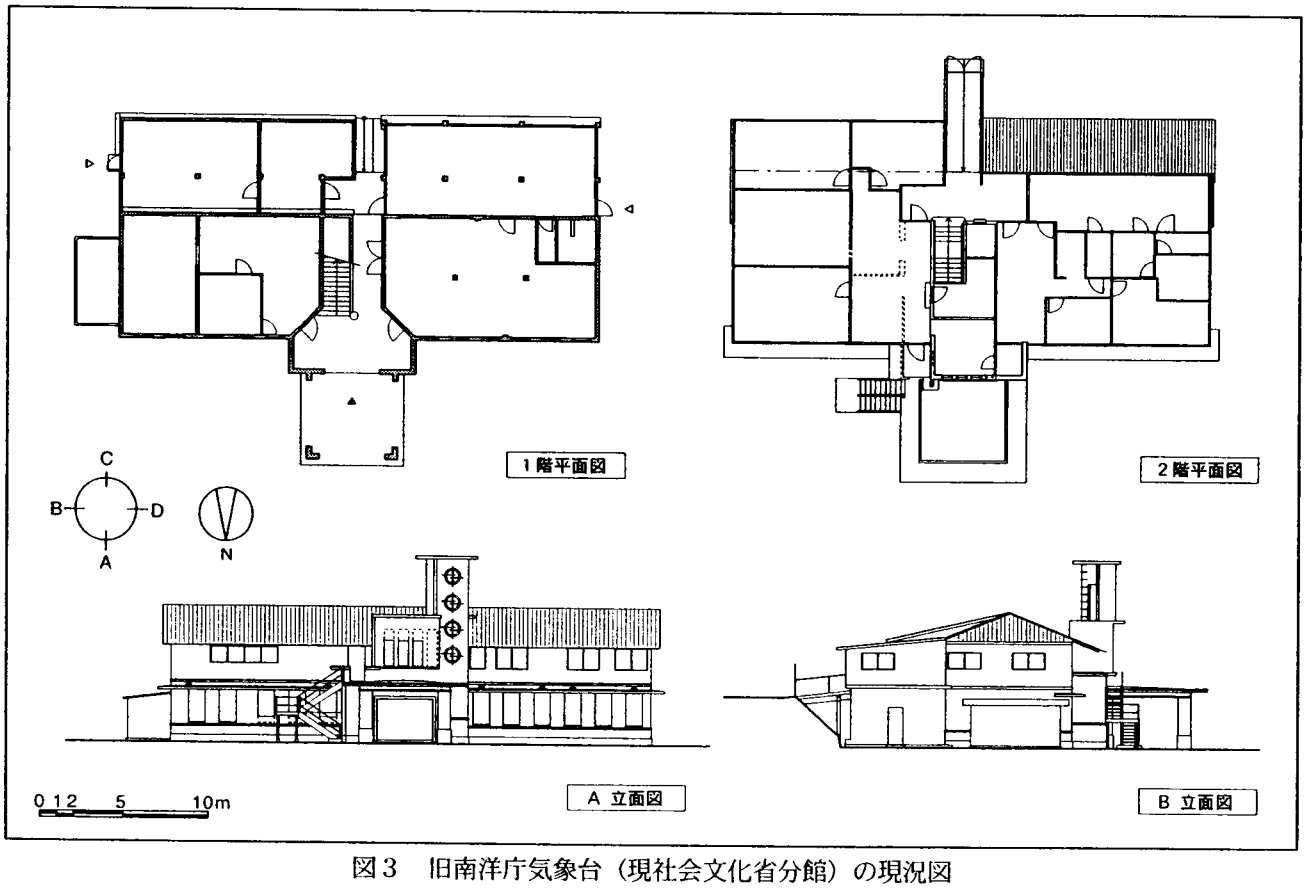

図３　旧南洋庁気象台（現社会文化省分館）の現況図

*1：熊本県立大学環境共生学部　講師・博士（工学）　Senior Lecturer, Prefectural University of Kumamoto, Dr. Eng.
*2：アトリエ イマージュ　Atelier Image
*3：熊本県立大学環境共生学部　助手・博士（工学）　Assistant, Prefectural University of Kumamoto, Dr. Eng.